

唯一無二の存在

二年 前田彩良

僕の名前はトム。富士市のある山で生まれた二歳の雑種だ。生まれて間もない頃、保護団体さんに保護されたのだ。今は、大好きな家族と暮らしている。ちなみに、元気に育ったから体重は十八キログラムもある。最近によく「重い。」と言われてしまう。

僕は基本的に人間のことを好きだ。でも、挙動不審な動きをする子供は少し苦手。それと、大きな声を出したり、突然触ってくる人間のこともあまり好きではない。

ときどき、家族と一緒に出かけをする。車に乗せられた時にはどこへ行くのかわからず、怖くて震えてしまうけれど、着いた先にお友達がいると嬉しさのあまり、早く車から降りたくなくなってしまふ。ドッグランへ遊びに行くのが最近の楽しみだ。お友達と思いつき走り走って遊ぶのは本当に楽しい。ドッグランでは初めて会う子もたくさんいる。その中には、吠えたり、向かってきたりする子もいる。このようなことをする子は得意ではない。だけど、僕は相手の子の大きさに関わらず仲良くできる。だから、僕が大きいからと言って小さい子とは遊べないだなんて勘違いしないでほしい。

一つ不思議に思っていることがある。僕の住んでいるお家の近くは、雑種の割合が極端に少ない。

ほとんどの子が、家族にペットショップで買われた純血犬なのだ。雑種に悪い印象や偏見を持っているから純血犬を選ぶのだろうか。僕と同じような雑種の子がお家の近くに來たら喜んでお友達になるのに。

トムが自己紹介をすれば、このような感じになるかな、と想像して書いてみた。文字にしてみると、改めてトムがかけがえのない存在だということに気づく。

トムのような保護犬の雑種は、他の犬より繊細だ。ビビリだし、大きいし。なんだかとてもわがまま。確かにこれを聞くだけだと、純血犬の方が良いと考える人は多いだろう。しかし、雑種にもたくさん良いところがある。世界に一つだけの見た目、体の丈夫さ、家族への忠実さ。挙げだしたらきりがない。全部ひっくるめて、私はトムのことが大好きだ。学校から帰ってきたときには必ず玄関へ迎えに来てくれる。それだけで一日の疲れが取れて、癒しをもらえる。保護犬かつ雑種という唯一無二の存在だからこそ、より愛おしく感じる。

もし犬を飼おうとなったら、ぜひ保護犬の雑種という選択肢も考えてほしい。トムのような犬がまだたくさん、ずっとのお家を待っている。

ビビリで、大きくて、なんだかとてもわがまま。それでいいと心から思える。私の大切な家族であり、相棒。そんなトムに本当に感謝している。いつもありがとう。そして、これからもよろしくね。